

テブフェンピラド水和剤 ピラニカ水和剤	取扱メーカー： クミカ、日本曹達、琉産 原体メーカー： 日農
成分： テブフェンピラド〔PRTR・1種〕……………10.0% その他 PRTR 該当成分： ドデシル硫酸ナトリウム〔PRTR・1種〕……………1.7～1.8%	性状： 類白色水和性粉末45μm以下 毒性： 劇物 消防法： —

【品目特性】……………

- 各種ハダニに対し優れた殺ダニ効果がある。また、チャノホコリダニなどにも有効である。
- ハダニの卵から成虫の全てのステージのハダニに高い殺ダニ活性を示す。
- 殺ダニ効果は速効的で、かつ残効性もある。
- 殺ダニ効果は温度（10～30℃）による影響が少く、低温から高温までのいずれでも優れた防除効果を示す。
- 訪花昆虫に影響が少ない。
- 各種作物に薬害の心配が少ない。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布ムラのないように丁寧に散布する。

- 連続散布は、ハダニ類の抵抗性を増加させるおそれがあるので、年1回の使用とし、他の殺ダニ剤との輪番で使用する。

〈作物別散布適期〉

- りんご

いずれの時期でも安定した防除が可能である。

- 開花期～開花直後
- 6月（リンゴハダニとナミハダニの混発期）
- 梅雨明け（ハダニの増殖期）
- 8～9月（ナミハダニ）

- なし

- 梅雨明け（ハダニの増殖期）

- もも

- 梅雨明け（ハダニの増殖期）

- かんきつ

いずれの時期でも安定した防除が可能である。

- 6月
- 梅雨明け
- 9～10月

【薬効・薬害等の注意】……………

- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節する。

- かきの展葉後から開花期に使用する場合、品種によっては早期落葉を生じない程度の褐変が発生する場合があるので、事前に確認してから使用する。

- 適用外作物（ばら、さつき）への薬害の注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

- 魚類に影響を及ぼすおそれがあるので使用時は注意。

- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



【適用と使用法】

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	テフエンピラドを 含む農薬の総使用回数
りんご	ハダニ類	1000 ～ 2000 倍	200 ～ 700 ℓ	14 日前まで	1 回	散布	1 回
	ユキヤナギアブラムシ リンゴサビダニ うどんこ病	2000 倍					
なし	ハダニ類	1000 ～ 2000 倍		21 日前まで			
	ニセナシサビダニ	1000 倍					
かんきつ (みかんを除く)	ミカンハダニ	1000 ～ 2000 倍		前日まで			
	チャノホコリダニ	2000 倍					
みかん	ミカンハダニ	1000 ～ 2000 倍		14 日前まで			
	チャノホコリダニ	2000 倍					
もも	ハダニ類	1000 ～ 2000 倍		14 日前まで			
おうとう 大粒種ぶどう		1000 倍		30 日前まで			
		いちじく		2000 倍			
かき	ハダニ類	21 日前まで					
	カキサビダニ	3 日前まで					
パパイヤ	ハダニ類	1000 倍					